

# Cisco IP Communicator と Microsoft Office Communicator を使用した導入とベスト プラクティス

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[導入](#)

[Microsoft Office Communications ServerとCisco Unified Presence、Cisco Unified Communications Manager、およびCisco Unified IP Phoneの統合](#)

[Microsoft Office Communicatorボイスメールアクセス](#)

[Active Directoryでの一般的なボイスメールユーザの設定](#)

[Microsoft Office Communicatorのワンクリックボイスメールアクセス設定](#)

[Cisco IP Communicator](#)

[Cisco IP CommunicatorでMicrosoft Office Communicatorを使用するためのベストプラクティス](#)

[Cisco IP Communicatorの非表示](#)

[Cisco IP CommunicatorがMicrosoft Office Communicatorにログインする前に登録を完了する](#)

[既知の問題](#)

[関連情報](#)

## 概要

Cisco Unified Communications は、Cisco Unified Endpoint のリモート コール制御（たとえば、クリック ツー コール）のため、Microsoft Live Communications Server 2005 または Office Communications Server 2007 を統合します。Microsoft Office Communicatorは、Microsoft Live Communications Server 2005またはMicrosoft Office Communications Server 2007とCisco Unified Communicationsの間のこの統合を通じて、Cisco Unified Endpointをリモートで制御するために使用されるアプリケーションです。

Cisco Unified PresenceとMicrosoft Live Communications Server 2005またはOffice Communications Server 2007間の通信では、SIP/SIMPLEインターフェイスが使用されます。ただし、Microsoft Live Communications Server 2005またはOffice Communications Server 2007は、SIP経由でコンピュータサポートの通信アプリケーション(CSTA)トラフィックをトンネリングします。したがって、Cisco Unified PresenceサーバのCTIゲートウェイは、クリックツーコール電話制御のCSTAからCTIへの変換を処理するように設定する必要があります。

## 前提条件

## 要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

## 使用するコンポーネント

Cisco IP Communicatorを使用してMicrosoft Office Communicatorを展開するには、次のコンポーネントが必要です。

- Cisco IP Communicator : バージョン2.1以降
- Microsoft Office Communicator:2005または2007
- Cisco Unified Communications Manager : バージョン5.0(4)以降
- Cisco Unified Presence : バージョン6.xまたは1.x
- Microsoft Live Communication Server 2005またはMicrosoft Office Communications Server 2007
- Microsoft Office CommunicatorがボイスメールアクセスにCisco IP Communicatorを使用する場合、次のいずれかのボイスメールシステムが必要に応じて使用されます。Cisco Unity : バージョン5.0(1)以降Cisco Unity Connection : バージョン2.0(1)以降

必要なコンポーネントでサポートされている最新バージョンの組み合わせについては、Cisco.comの互換性ドキュメントを参照してください。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 導入

このドキュメントの目的は、Microsoft Office CommunicatorがCisco IP Communicatorをリモートで制御する機能である、ソフトフォンを使用したCisco Unified Communicationsコール制御を提供する特定の導入シナリオを強調することです。コールの発信、受信、および処理を行うユーザ機能はすべてMicrosoft Office Communicatorを使用して実行されますが、基盤となるオーディオ機能はCisco IP Communicatorによって提供されます。

このドキュメントでは、Cisco Unified PresenceとCisco Unified Communications Managerを使用してMicrosoft Office Communicatorを設定し、サードパーティのコール制御にCisco IP Communicatorを使用してボイスメールにアクセスする方法について説明します。このドキュメントでは、Microsoft Office CommunicatorとCisco IP Communicatorを使用するためのエンドユーザのベストプラクティスについても説明します。このドキュメントでは、完全なソリューション設定の段階的な設定については説明しませんが、必要なコンポーネントを正しく導入するために必要なリファレンスマニュアルを提供します。

## Microsoft Office Communications ServerとCisco Unified Presence、Cisco Unified Communications Manager、およびCisco Unified IP Phoneの統合

Cisco Unified Presenceを使用すると、Microsoft Office Communicatorは、JTAPIによって制御されるCisco Unified IP Endpointをサードパーティのコール制御に使用できます。Microsoft Office

Communicatorのユーザーは、Active Directory Users & Computers経由で通信できます。Active Directory Users & Computersには、「dsa.msc」を使用してLive Communications Server 2005またはOffice Communications Server 2007プラットフォームコマンドラインからアクセスできます。

必要なコンポーネントを確認したら、システムが正常に動作するようにこれらのコンポーネントを体系的にインストールしてテストするために、この作業リストを使用します。このタスクは、Cisco Unified Presenceのドキュメントおよび関連するアプリケーションノートの詳細な手順を参照しています。一部のタスクは特定の状況にのみ適用され、そのように記載されています。タスクが状況に該当しない場合は、スキップします。

1. Cisco Unified Presenceをインストールします。[Cisco Unified Presence](#)のインストールおよびアップグレードガイドで該当する[インストールガイドを参照してください](#)。
2. Microsoft Office CommunicatorとCisco Unified Presenceを統合するタスクを実行します。設定の詳細については、次のドキュメントを参照してください。該当する統合メモ/導入ガイドについては、『[Cisco Unified Presence構成ガイド](#)』を参照してください。Microsoft Live Communication Server 2005 Enterprise Edition SP1からCisco Unified Presence 1.0(3)およびCisco Unified CallManager 5.0(4)については、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/cucme/pbx/interop/notes/573420nt.pdf](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucme/pbx/interop/notes/573420nt.pdf)を参照してください。Microsoft Office Communication Server 2007 Enterprise Edition SP1からCisco Unified Presence 6.0(1)およびCisco Unified Communications Manager 6.0(1)については、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/cucme/pbx/interop/notes/617030nt.pdf](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucme/pbx/interop/notes/617030nt.pdf)を参照してください。Microsoft Office Communicator 2007については、『[Microsoft Office Communicator 2007 Deployment Guide](#)』を参照してください。Microsoft Office Communications Server 2007の設定については、『[Microsoft Office Communications Server 2007アドミニストレーションガイド](#)』を参照してください。その他のMicrosoft Office Communications Serverのドキュメントについては、[Office Communications Serverを参照してください](#)。
3. 統合をテストします。Cisco Unified IP Phoneを使用するようにMicrosoft Office Communicatorを設定します。Microsoft Office Communicatorを使用して、別のユーザの電話に発信します。Microsoft Office CommunicatorがCisco Unified IP Phoneを正しく使用していることを確認します。

## [Microsoft Office Communicatorボイスメールアクセス](#)

Microsoft Office Communicatorクライアントのダイヤルパッドに、ボイスメールに直接アクセスするためのキーがありません。ただし、Active DirectoryおよびLive Communications Server 2005またはOffice Communications Server 2007で一般的なボイスメールユーザを設定し、ユーザにMicrosoft Office Communicatorでこのユーザを連絡先として追加させることで、シングルクリックによるボイスメールアクセスをシミュレートできます。その後、ユーザはクリックツーダイヤルを使用して連絡先にコールし、ボイスメールにアクセスできます。

### [Active Directoryでの一般的なボイスメールユーザの設定](#)

Microsoft Office Communicatorでボイスメールへのシングルクリックアクセスをシミュレートするには、Active Directoryで汎用ボイスメールユーザを設定します。

注：ユーザが異なるパイロット番号を使用してボイスメールにアクセスする場合は、Active

Directoryでパイロット番号ごとに個別の汎用ユーザを作成し、Microsoft Office Communicatorで連絡先として追加する汎用ボイスメールユーザをユーザに通知する必要があります。

1. Active Directoryで、次の設定を使用してユーザを作成します。
2. Live Communications Server 2005の[Live Communications]タブまたはOffice Communications Server 2007の[Communications]タブをクリックします。
3. Live Communications Server 2005の[このユーザーのLive Communicationsを有効にする]タブまたはOffice Communications Server 2007の[Communications Serverのユーザーを有効にする]タブをクリックしてください。
4. SIP URIを指定するには、sip:voicemail@<ドメイン名>を入力します。
5. [pool]ドロップダウンリストから、ユーザに適用するプールを選択します。
6. [OK] をクリックします。
7. [Exit] をクリックします。

## Microsoft Office Communicatorのワンクリックボイスメールアクセス設定

ユーザは、Active Directoryで一般的なボイスメールユーザを設定した後、Microsoft Office Communicatorでボイスメールへのシングルクリックアクセスを設定できます。

1. Microsoft Office Communicatorクライアントにログインします。
2. 連絡先のリストに汎用ボイスメールユーザを追加します。ボイスメールにアクセスするには、他の連絡先と同様にボイスメール連絡先にコールします。Microsoft Office Communicatorのダイヤルパッドを使用して、ボイスメールパスワードを入力します。

## Cisco IP Communicator

Cisco IP Communicatorは、Cisco Unified IP Phoneに加えて、Microsoft Office Communicatorリモートコール制御のエンドポイントとして使用できます。

1. Cisco IP Communicatorをインストールして設定します。[Cisco IP Communicatorリリース2.1のアドミニストレーションガイドを参照してください](#)。
2. Cisco IP CommunicatorでMicrosoft Office Communicatorをテストします。Cisco IP Communicatorを起動します。電話機がCisco Unified Communications Managerへの登録を完了したら、Microsoft Office Communicatorにログインします。注：Microsoft Office Communicatorにログインする前に、Cisco IP Communicatorの登録を完了する必要があります。Cisco IP Communicatorを非表示モードで実行するように設定するには、[Cisco IP Communicatorを非表示にします](#)。このステップは任意で実行します。ただし、ユーザエクスペリエンスの面から、Cisco IP Communicatorはシステムトレイに保持されます。これにより、オーディオがCisco IP Communicatorを使用している間、Microsoft Office Communicatorをユーザ制御にすることができます。Microsoft Office Communicatorを使用して、別のユーザの電話に発信します。Microsoft Office CommunicatorがCisco Unified IP PhoneではなくCisco IP Communicatorを使用していることを確認します。ユーザがMicrosoft Office Communicatorを使用してボイスメールにアクセスする場合は、他の連絡先と同様にボイスメール連絡先に発信して、ボイスメールアクセスをテストします。Microsoft Office Communicatorのダイヤルパッドを使用して、ボイスメールパスワードを入力します。

## Cisco IP CommunicatorでMicrosoft Office Communicatorを使用

## するためのベストプラクティス

Microsoft Office CommunicatorをCisco IP Communicatorと統合する際には、最良のユーザエクスペリエンスを実現するために従うべきベストプラクティスがいくつかあります。

- [Cisco IP Communicatorを非表示にする](#)と、Cisco IP Communicatorはコールセットアップ中またはアクティブコール中に制御インターフェイスとして表示されずに、システムトレイで実行できます。これにより、ユーザは1つのコントロールインターフェイスであるMicrosoft Office Communicatorを使用できます。
- [Cisco IP CommunicatorがMicrosoft Office Communicatorにログインする前に登録を完了する](#)と、Microsoft Office Communicatorが最後に登録されたCisco Unified Endpointを制御できるようになります。
- Microsoft Office CommunicatorでCisco Unified Endpointを使用する方法に関するエンドユーザトレーニング ( Cisco Unified IP PhoneでもCisco IP Communicatorでも )

### Cisco IP Communicatorの非表示

Cisco IP Communicatorは、隠しモードで動作するようにオプションで設定でき、システムトレイに保持されます。

1. Cisco IP Communicatorを右クリックし、[設定]をクリックします。
2. [ユーザー]タブをクリックします。
3. [最小化するときに非表示]チェックボックスをオンにします。
4. [アクティブコールで前面に移動]チェックボックスをオフにします。
5. [着信通知を非表示にする]チェックボックスをオンにします。
6. [OK] をクリックします。
7. Cisco IP Communicatorデスクトップショートカットを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
8. [Shortcut] タブをクリックします。
9. [ファイル名を指定して実行]ボックスの一覧の[最小化]をクリックします。
10. [OK] をクリックします。
11. Cisco IP Communicatorを最小化します。

### Cisco IP CommunicatorがMicrosoft Office Communicatorにログインする前に登録を完了する

Microsoft Office Communicatorクライアントは1台の電話機のみを制御し、Microsoft Office Communicatorはユーザがログオンするときに使用する電話機を決定します。ユーザが同じ電話番号を共有するようにCisco IP CommunicatorとUnified IP Phoneの両方を設定している場合は、この操作が課題になることがあります。

デフォルトでは、Microsoft Office Communicatorは、ユーザがMicrosoft Office CommunicatorにログインするときにCisco Unified Communications Managerに登録されている場合にCisco IP Communicatorを制御します。ユーザは、Cisco IP Communicatorを起動して登録を完了するまで、Microsoft Office Communicatorにログインしないでください。そうしないと、Microsoft Office CommunicatorがユーザのCisco Unified IP Phoneを制御します。

Microsoft Office Communicatorでは、使用する電話機を指定できません。ユーザがMicrosoft Office CommunicatorにログインしたときにCisco IP Communicatorの登録が完了しなかった場合



、ユーザはMicrosoft Office Communicatorからログアウトしてから再度ログインして問題を解決する必要があります。同様に、Microsoft Office CommunicatorがCisco IP Communicatorを制御していて、Microsoft Office CommunicatorでCisco Unified IP Phoneを制御するように切り替える場合、ユーザはMicrosoft Office Communicatorからログアウトし、Cisco IP Communicatorを閉じてMicrosoft Office Communicatorにログインします。

WindowsにログインしたときにMicrosoft Office Communicatorが自動的に起動しないように設定することをお勧めします。Microsoft Office Communicatorで、[ツール] > [オプション]をクリックし、[個人]タブの[Windowsへのログオン時にCommunicatorを自動的に起動する]チェックボックスをオフにします。

## 既知の問題

次に、Cisco IP CommunicatorでMicrosoft Office Communicatorを使用する際の現在既知の問題のリストを示します。

- Cisco Bug ID [CSCsl55367](#)([登録ユーザ](#)専用) : 共有回線がMOCで正常に動作していない。問題 : [Cisco IP CommunicatorでMicrosoft Office Communicatorを使用するためのベストプラクティスに従う](#)と、Cisco IP Communicatorが登録されると、Microsoft Office Communicatorが制御するデバイスになります。Cisco Unified IP PhoneがCisco IP Communicatorの共有回線である場合、Microsoft Office Communicatorはデバイスに関する知識を持っていても、Cisco Unified IP Phoneを実際に制御しません。これは、Cisco Unified IP Phoneからコールに直接応答すると、Microsoft Office Communicatorがそのデバイスを制御しなくても制御ウィンドウを表示するという、混乱を招くユーザエクスペリエンスを提供します。緩和策 : なし
- Cisco Bug ID [CSCsl59987](#)([登録ユーザ](#)専用) - MOCキーパッドを使用するとDTMFが遅延する。問題 : Microsoft Office Communicatorを使用してボイスメールにアクセスする場合、Microsoft Office Communicatorのキーパッドで数字を入力すると、パスワードを入力する時間が短縮されます。これにより、一部のディジットがCisco Unified Communications Managerで受信または処理されず、認証が失敗する可能性があります。緩和策 : 認証の失敗の問題を回避するために、ユーザは数字を押す間に約1秒一時停止することを推奨します。
- Cisco Bug ID [CSCsl60049](#)([登録ユーザ](#)専用) - MOCにはミュート機能はありません。問題 : Microsoft Office Communicatorの[ミュート]ボタンを使用しても、Cisco IP Communicatorオーディオストリームはミュートされません。緩和策 : ありません。Cisco Unified Communications Managerには、Cisco Unified Endpointのミュート機能を具体的に制御するためのCTI制御がありません。
- 最後に、Cisco IP Communicatorがエクステンションモビリティを使用するように設定されている場合、デバイスプロファイル名はSEPで始めることはできません。

## 関連情報

- [Cisco Unified Communications Manager 6.xに基づくCisco Unified Communications SRND](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)